

『哲学研究』の周辺への追補

松丸 壽雄

『哲学研究 第六百号記念特集号』に『哲学研究』の周辺』という題でエッセーを書かせて頂いた。『哲学研究』創刊当時と私の助手時代とを比較しながら出版にまつわる事柄を扱った。その中で「大正五年度講義題目」に触れた箇所、当時の「宗教學」担当の「蘭田講師」がどなたであるか調べがつかないままに記した。そうしたところ、思わぬ反響があった。

それは、平成二十八年十二月十八日付けで、蘭田亮子様からのご指摘と資料のコピーを頂いたことだ。これにより「蘭田講師」とは「蘭田宗恵(しゅうえ)」氏(1863-1922)であることが判明したのだ。蘭田宗恵氏は浄土真宗の米国開教、欧州宗教学事情視察、印度仏教遺跡の探検など幅広く活躍し、明治三八年仏教大学(現龍谷大学)長、明治四〇年に京都帝國大學文科大學に宗教學の講師として就任、大正九年まで講師の職を全うされた。(以上、蘭田香勲編『蘭田宗恵 米国開教日誌』昭和五〇年、法藏館刊、による)しかも、蘭田宗恵氏は、京都大学文学部哲学科西洋哲学史講座教授でいらした蘭田坦先生(平成二十八年に御逝去)の父君(蘭田香勲氏)方の御祖父であることも同時にお知らせ頂いた。この次第判明は蘭田亮子様が蘭田坦先生の奥様でいらっしやることに由る。

雑駁なエッセーを読んで下さった方がいらして、しかも真摯な反応を頂き、誠に有り難いことと感謝いたしております。